花園大学
同窓会通信

2015 March　Vol.90

昭和40年代の学舎。前庭は「芳徳苑」

CONTENTS

百花春至って誰が為にか開く……2
花園大学 学長　細川 景一
学園長就任のご挨拶……4
花園学園 学園長　松井 宗益
同窓会ニュース……6
大学ニュース……9
クラブ紹介……15
書道部・吹奏楽部
花園大学師弟座談会……16
桐田清秀先生を囲んで
桐田 清秀（文学部名誉教授）
船越 義正（京都市身体障害者リハビリテーションセンター）
鍋島 康秀（社会福祉法人 和）
井上 圭伍（大阪府立松原高等学校）
お元気ですか……20
教員寄稿 ―お久しぶりです―……21
各種案内……22

HANAZONO Univ.

臨済宗妙心寺派第三十四代管長に花園大学同窓嶺興嶽老大師が就任

百花春至って誰が為にか開く

花園大学 学長　細川 景一

同窓会各位にはそれぞれご健勝にてご活躍のこと慶賀に存じます。二〇一一(平成二十三年)年三月に発生しました東日本大震災、更に、一昨年の異常気象による集中的な大雨、多雨に伴う自然災害、また更に、昨年の台風十八号、十九号の豪雨等による被災地の一日も早い復興と皆様のご健康を衷心より祈念いたします。

さて大本山妙心寺では、昨年四月河野大通又玄崖老大師が管長職を退任され、新しく嶺興嶽江松軒老大師が就任されました。この度のご就任を心よりお喜び申し上げます。

老大師は岐阜県養老郡のご出身で岐阜大学に入学されましたが、本学に改めて入学されて一九六五(昭和四十)年に卒業、その後名古屋の徳源寺専門道場で修行の後、僧堂の師家にご就任された大徳です。

いろいろなところで、いつも本学で学んだことを親しくお話しになり、同窓の方より声をかけて頂くのが何より嬉しいとおっしゃっています。今後、ご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

二〇一五(平成二十七)年の春を迎えました。寒風吹きすさぶ冬の時節は、見渡す限り枯野原でも、ひとたび春風が吹けば、何処からともなく次から次へと青い芽を出し、たちまち緑をつけて、一斉に花を咲かせます。

江戸の漢学者、佐藤一斎は、「月を看るは、清気を観るなり、円欠晴翳の間に在らず。花を看るは、生意を観るなり、紅紫香臭の外に在す」と云い、月や花の清気と生命を見て取れと教えています。

「百花春至って誰が為にか開く」花は一体、誰の為に咲くのでしょうか。誰の為でもありません。何の為でもありません。そこにはそういったはからいは微塵もありません。自分の生命の赴くままに自分の全生命を無心に発揮して、天地一パイに「ただ、ただ」無心に咲いているのです。私達の生き方もこうありたいと思う昨今です。

最後になりましたが、本学に対して皆様方の一層の力添えをお願いして、ご挨拶とさせて頂きます。

嶺興嶽管長猊下

●管長ご略歴

1942(昭和17)年11月20日生。徳源寺専門道場師家。道号は興嶽。諱は道隆。
室号は江松軒。俗姓は嶺。岐阜県養老郡養老町出身。大通寺住職嶺龍昌師に就き得度。1961(昭和36)年岐阜大学に進学後、花園大学に移り1965(昭和40)年卒業。同年、徳源寺専門道場に掛搭、松山萬密老大師に嗣法する。
1990(平成2)年3月徳源寺専門道場師家に就任。同年11月晋山式を挙行。1991年(平成3)年5月24日歴住開堂を挙行、妙心寺第690世。
2014(平成26)年4月1日、臨済宗妙心寺派第34代管長に就任。同年5月24日晋山式※を挙行。

※晋山式(しんざんしき)
寺院に、新しい住職が就任する時に執り行われる儀式。

個性溢れる人材育成のために

花園学園 学園長
松井 宗益

私が在学していた、四〇数年前の花園大学は、学生数も六〇〇～七〇〇と少なかったので、皆、お互い顔を知っていました。当時は学園紛争の時代で、花大もキャンパス内にバリケードが築かれ、二回生から三回生にかけての半年間、授業ができない状態が続き、教授会等も円町の法輪寺で開かれたりしていました。私も常に緊迫感をもって大学に通っていましたが、当時の若者は、右派も左派も、それぞれ真剣に学校を思い、純粋に日本をよりよい国にしたいと考え、一人ひとりが個性的で、顔を見ただけで、どういう人間なのかわかりました。

今の学生はみんな真面目で、勉強も一生懸命するのでよいのですが、自分をしっかり見つめようという姿がなかなか見えて来ません。この人はどんな人なのか、一人ひとりの顔が見えない気がします。それには時代の変化も影響しているでしょう。高度情報社会と言いますが、情報の伝わる速度が速くなっただけで、伝わってくる情報が高度なものになったわけではありません。洪水のような情報のなかで、私たちはかえって自分を見失っていないでしょうか。しっかりとした自分をみつめていかないと、人生を本当に悔いなく生きることができません。自己を内省して、どういう心持で生きていくのが、人として悔いのない生き方なのか、その根底を探求することが、きわめて重要になっています。そして、正にそれこそが花園大学の建学の理念、禅のこころです。

ご承知のとおり、大学を取り巻く環境は厳しさを増しております。日本全国で多くの大学が定員割れを起こし、今後さらに少子化が進んでいきます。これからの時代、存続し得る大学は2つのタイプに分かれると言われています。一つには、様々な分野の教育・研究が可能な大規模校です。もう一つは小規模ではあるけれど、そこに行かないと学べないという個性や特性を有する大学です。花大には、「禅」を根底とした教育、即ち、自分を深く掘り下げて自己の持つ素晴らしさを自覚できる事が学べるという他校にない特性があります。しかも、幸いなことに小規模なので、学生同士はもちろん、学生と先生の間も非常に密接で家族的な雰囲気が伝統的にあり、小回りがきいて一人一人の学生に対するきめ細やかな対応が可能です。

間もなく創立一五〇年を迎えようとする時、世界で唯一の禅の学校といわれる花園大学が果たすべき役割は、年々大きくなっています。経済至上主義が蔓延し、様々な問題が生じている一方で、社会においては禅が脚光を浴びており、アップルの故スティーブ・ジョブス氏や京セラの稲盛和夫氏などのように、禅によって自分をみつめ直し、無心になって、新たなものや大きなものを発見し、会社の経営や事業に活かす人も増えています。またグローバル化が進む一方、宗教の違いに起因する紛争が世界中で生じていますが、禅の良い点は、自由闊達で、異なる考え方も排除せず、寛容な点です。教堂の祈りの「世界の平和を願求し　暴力に訴えず、自らを内省して我欲を制し、個人の幸福が人類の福祉と調和する道を歩まんことを」という言葉を心に刻み、本学や卒業生が社会で活躍する機会は今後ますます増えていくことでしょう。

学生の皆さんには、本当に悔いのない学生生活を送ってもらい、一人一人が個性あふれる、生き生きとした人間となって卒業してもらいたいと願っています。そして卒業生の皆さん、京都にお越しの際には、母校にお立ち寄りいただき、同窓会本部を訪ねてみてください。教職員一同心から歓迎いたします。また各支部で、総会等をお開きの際には、ぜひお声がけください。私も喜んで馳せ参じたいと存じます。そしてご子息ご息女はもとより、お知り合いやご縁のある方が、ぜひとも花園大学へ進学下さいますよう御尽力をお願い申し上げます。

私も微力ながら、母校をよりよい学びの場とするべく、がんばって参る所存です。

2014（平成26年）年度

同窓会ニュース

時代は変わっても続いている卒業生同士の交流や親睦。
今年度も、支部総会・役員会、同窓会など多数開催のご報告を
いただいております。一部をご紹介申し上げます。

社会福祉学科 二十二回卒業生 同窓会

五月八日開催　幹事　竹原 重彦

私たちは丁度大阪万博一九七〇（昭和四十五）年の年に入学いたしました。当時は文学部社会福祉学科でした。

先輩方の同窓会の様子を拝見し「私達も」と年一回で始めて昨年五月の会で三回目となりました。毎回、当時皆が公私共にお世話になった桐田清秀先生にお出でいただき当時の思い出や現在の学内の様子など語り合っております。

今回は初の女性幹事にて母校の見学が叶いました。当日は学長老師がお出迎えくださり直心館の介護実習室はじめ当時の面影が残る花高講堂等見学して今昔の思いに浸りつつ、母校と後輩の発展を願いつつ散会いたしました。

～二人の管長猊下を輩出～ 花園大学第十三期生

五月二十五日・十一月三日開催

二〇一四（平成二十六）年「甲午（きのえうま）」の歳、お二人共、一九四二（昭和十七）年「壬午（みずのえうま）」十一月生まれの臨済宗派を代表する管長が誕生した。

お一人は、五月二十六日に、妙心寺派第三十四代管長に晋山された、江松軒嶺興嶽老大師。当日は、晴天の下盛大裡に、本山妙心寺にて約一二〇〇人の参列者が見守る中、晋山式が挙行された。

そして、十一月四日には、紅葉深まりつつある広島県三原市、佛通寺派第七代管長に凌雪軒小倉賢堂老大師が晋山された。佛通寺一山を挙げての盛儀の中、晋山式が挙行された。

「壬午」歳生まれの両老大師が、奇しくも「甲午」の歳に管長にご晋山されるという巡りあわせに、はかり難い機縁の妙を感ぜずにはいられない。

我々十三期生は、いずれも晋山式の前日に、妙心寺の節は、「ANAクラウンプラザホテル」において、佛通寺の節は、竹原市「HOTEL賀茂川荘」において、晋山祝賀会を開催させていただいた。旧交を温めつつ、それぞれ慶祝申し上げた。

十三期生にとって、両晋山式にも参列させていただき、感慨もひとしお、誠に好機で栄誉なことであった。

今後、両猊下益々ご健勝にて、仏教界はもとより宗派をご総覧いただき、ご活躍されんことをご祈念申し上げる次第である。

なお、十三期生の申し合わせは、「入学時」又は「卒業時」が同じであることが条件であり、現会員は。四十五名である。　文責　昭和四十年卒　藤田義光

写真上は嶺老大師、下段は、小倉老大師の晋山祝賀会。

昭和三十四年入学同窓会

八月二十六日開催　只間 康道

今回で何度目の同窓会になるんだろうと考えてしまいました。

今を去る三十数年前、当時龍安寺の住職をされていた木下玄龍師の余りにも早い遷化に驚き、京都在住の方々の呼びかけで追悼会を催したのが始りだったと思われます。

当初は二年に一度開かれていたのが、年を重ね還暦を過ぎてからは毎年になり北海道から鹿児島まで会処を変えて続いてきました。

今回は神戸でという事になり阪神大震災から二十年、表向き復興した神戸の夜景を賞でて頂き乍らの会食、二次回と夜更けまで歓談が続き翌日は酒倉や港めぐり等を楽しんで頂きました。

卒業から六十数年を過ぎ皆いちように身体の不調を思い知らされ乍らも「一病息災」とか来年は「光貴幸齢者?」の仲間入りと、強気の冗談を交し乍らの二日間でした。

次回は京都での再会を約してお開きに成りました。

花園大学三四会（昭和三十四年三月卒）

十月十六日開催　幹事　巨島 泰雄

当日は、東京はとバスのりばに集合、東京ドームホテルのバイキングを楽しみ、スカイツリーへ初登塔、夜は築地の竹若で歓談、翌日メインの歌舞伎鑑賞をして本年の同期会を楽しみました。数年前から寺庭同伴が公認、我が老妻もこの会の大ファン。

幹事は順番で毎回それぞれの観光穴場や史跡等を案内、互いに見分を広めています。

次は、本会初となる寺庭勢へのバトン渡しが済み、また又、秋が待ち遠しい限りです。

邦楽部OB会

十一月二十二日開催　昭和五十二年国文学科卒　臼井 喜法

花園大学教室で、邦楽部OB会を開催しました。不定期の開催ですが、今回は途中で退部したり、部員の友達だったりした人も参加しました。クラブ活動の繋がりで集まるのも楽しいもので、懇親会の夜が更ける頃には、皆すっかり学生時代の顔に戻っていました。

大学ニュース

二〇一四（平成二十六）年度報告

花園大学で行った行事やイベントなどを中心とした新しい情報を紹介します。

花大今昔物語

十一月六日開催

花園会本部長　鮎川　博道

♪見よ草深き落陽の
月に嘯く男の子らが・・・♪

懐かしい白雲寮歌が、花園会館に響き渡りました。思えば一九五九（昭和四十三）年、花大新入生四十五人が親元を離れ、多感な青春時代を過ごした白雲寮での日々が、五十年近くたった今も、この寮歌を歌うたびに、ついこのあいだのことのように思い出されます。

舎監の大崎恭道師の、何も知らない私たち若僧に今になって思えば、誠に懇切丁寧且つ適切なご指導の下、携帯電話もコンビニもない時代、冬は煉炭火鉢だけ、夏は汗とカビ臭さが充満する部屋で寝食を共にし、今の禅塾と同様の生活の中で勉学は二の次、それぞれ部活やアルバイト、遊びに熱中する毎日でした。学生運動の過中、自治寮と称して荒廃、最後の白雲寮となりましたが、同期寮生との友情は卒業後も四三（よさん）会として長く続いています。

その四三会が、愛媛の華厳寺西谷英州師に幹事をしていただき、私が本山の花園会にいることもあって、妙心寺の花園会館で行われ、大崎先生ご夫妻はじめ初老の二十三人が、当時の思い出話に花を咲かせました。

多くが現役住職として重責を担う立場にあります。また教師、公務員などとしての要職を務め上げ、第一線を退いた者もおります。残念なことにすでに四人の同期寮生が他界し、中には病気療養中の者もいるという中で、互いの健康の有難さを噛みしめる年代になりました。

次回開催に元気な顔での再会を誓い、今回の四三会を終了いたしました。

大崎先生ご夫妻はじめ四三会メンバーのご健勝をお祈り申し上げます。

大分県支部総会

五月八日開催

大分支部事務局　高田　祥道

別府市北浜「ホテルニューツルタ」において、恒例の大分県支部総会が行われました。本年は公開講演会の年に当っておらず、また役員の改選や規約の改正もなかったので、スムーズに会を終えることができました。終了後は、温泉につかって疲れた体を癒し、その後の懇親会ではお酒を酌み交わしながら和やかに語らいました。日頃なかなか顔を合わすことがない人達とも会え、とても有意義な時間を過ごすことができました。

兵庫県東支部総会

七月五日開催

同窓会監事・兵庫東支部長　植木　民雄

本年は、六五〇〇人の尊い命が失われた「阪神淡路大震災」から二十年の節目にあたります。拙宅も半壊、実家は全壊致しましたが、頑張ってまいりました。

昨年の支部総会は、神戸の名門「北のクラブ」で開催し、大学より、丹治副学長、児嶋学外交流課長、また田中兵庫西支部長も出席され、総会後は、美味しいフランス料理に舌鼓を打ちました。

大学に目を向けますと、「二〇一八年問題」は、全大学に危機感が走っており、新しい魅力で受験生を奪わないといけない時代、「この大学でなければ」という明確なメリットがないと学生を引っ張れない時代となりました。

今後、大学と同窓会が協力し、少しでも母校発展に寄与したいと願っております。

島根県支部総会

十二月五日開催

支部長　加藤　眞丈

松江市「鶴丸」において、島根県支部総会を開催しました。今回は、当支部同窓生で、花園学園専務理事学園長に就任された松井宗益氏より、「花園学園の現状と今後の展望」と題したお話を拝聴しました。設立からの歴史を振り返り、また学園の経営に至るまで、多くのことを学び、卒業生としての学園支援に向けた気持ちを新たに致しました。師走の慌しい中ではありましたが、同窓生十八名が出席し、有意義な時間となりました。

京都学講座

今年度は「京都の底力」をメインテーマとして、三日間にわたり六つの一般公開講座を開講しました。

八月一日は、液晶AQUOSのデザインで知られる世界的な工業デザイナーの喜多俊之氏をお迎えし、伝統工芸をデザインし直す取り組みについて講演いただきました。ついでガルデザインシステムの田中如水氏には、ROHMが京都の町工場から世界的な半導体メーカーに成長する過程を、同社のデザイン戦略という観点から解説していただきました。

八月二日は、京町屋再生研究会の小島冨佐江氏から、京都の町屋を将来に向けて受け継いでいくことの難しさと大切さを語っていただきました。ワークスメディアの杉浦克海氏は、ベトナム支社と京都事務所と花園大学をリアルタイムで中継して、最新の情報通信サービスについて解説されるとともに、京都の町屋に活動拠点を置く意義と展望についてお話くださいました。

八月三日は、臨済宗徳寿院住職の山崎紹耕氏から精進料理の歴史、調理法、食べる際の心構えを説明いただき、根底にある精神性の継承についてお話いただきました。和紙来歩の加藤富美代氏は和紙を使ったワークショップを通して、和紙という素材の魅力を解説され、海外への進出と将来性についてもお話くださいました。

今年度は知っているようで知らない、京都の別な側面について貴重なお話を伺うことができました。古くて新しい伝統の力、世界に通用する京都ブランドの力、そしてこうした京都の地の利について改めて実感する公開講座であったと思います。

Festa 花大 2014

「trick ! trick ! trick !」

二〇一四（平成二十六）年十月二十四日から二十六日まで、学園祭が開催されました。二十五、二十六日が休日ということもあり多くの方に来学いただき、とりわけ多くの同窓生の顔を拝見できたことは嬉しいかぎりです。

今年は、「trick ! trick ! trick !」というテーマでハロウィンをイメージして開催しました。

来年も十月末の三日間に開催を予定していますので皆さんも是非お立寄り下さい。

（二〇一四年学園祭実行委員長　文化遺産学科三回生　島上　康友）

心理カウンセリングセンター

花園大学心理カウンセリングセンターは、二〇〇六(平成十八)年二月に開設され、まもなく十年目を迎える施設です。無聖館の地下一階に位置しますが、採光に工夫がなされ、静かで穏やかな雰囲気をたたえた空間になっております。ここではお越しになった方々の悩みや心配事についてスタッフが丁寧にお話をおうかがいし、問題が少しでも緩やかなものになるようお手伝いをしております。スタッフは臨床心理士の資格を持つ教員、相談員、本学大学院社会福祉学研究科の大学院生からなり、より良い援助に向け、日々研鑽に努めております。

また、毎年著名な講師をお招きしての発達障害セミナーや公開講演会を開催し、『こころ』にまつわる事柄について地域の皆様と共に学ぶ機会を設けております。ありがたいことに毎回たくさんのご参加をいただき、こういった集まりを機に当大学や当センターにも関心を向けてくださる方が増えていることもうれしい限りです。

日々の生活で悩み、考えることは誰にでもあることですが、もしそれが一人で抱えきれないものになるようであれば、当センターにお越しいただき、何かお手伝いができたらと考えております。まずはお気軽にお問い合わせください。詳細はホームページでもご確認いただけます。

電話番号：075-277-0033
(受付時間 9:00-17:00、日祝休)
ホームページ：
http://www.hanazono.ac.jp/mental

第八十三回 花園大学公開講演会

十月十七日開催
神戸市長田区　ピフレホール

十一年間続けて行われている神戸での講演会。丹治光浩副学長より大学の紹介を兼ねてのご挨拶に引続いての講演。約三百人の来館者で、講師はジャズシンガーの綾戸智恵さん。カンボジアからの帰国便を成田から関空に変更しての到着。定刻通り来られるか内心気をもむ中、予定通りの開講。入場時間待ちの人が多くなり、予定より早めの入場としました。

今回はコンサートではなく一時間の講演で、自身の生い立ちの経験を基に、先祖の御蔭で生まれ今あること、知識よりも智慧の大切さ、母の介護を経験して、介護の中に「我」を入れてはいけない要点、過去を変えることは出来ないが、過去が自分を変えてくれる。「今でしょ」ではなく「過去でしょ」と洒落を入れ、今日が皆さんと過ごした善い過去になりますよう願っていると語られ、来聴者の方とも親しく握手に応じて頂きました。

講演後、別席で懇親会を行ない、丹治副学長、児嶋学外交流室長及び御世話になったサンテレビや神戸新聞社の関係方も含めて、無事講演会を納めることが出来たことに感謝して、楽しいひと時を過ごしました。

毎年、植木民雄支部長の厚意により、サンテレビや神戸新聞紙上に宣伝広告を行なっていることを紙面を拝借して御報告申し上げます。

(長福寺 原田太胤)

花園大学歴史博物館報告

秋季企画展
滅却心頭火自涼
―甲斐の名刹・恵林寺の至宝―
十月六日～十二月十三日

安禅必ずしも山水を須いず、心頭を滅却すれば火も自ら涼し。

中世における傑僧・快川紹喜(?～一五八二)の遺偈として、快川の名とともに広く知られています。その舞台となったのが、甲斐の名刹・乾徳山恵林寺(山梨県甲州市、臨済宗妙心寺派)。天正十年(一五八二年)、恵林寺は織田信長軍勢の焼き討ちに遭い、時の住持であった快川は、燃え上がる三門楼上でこの遺偈を唱え火定を遂げました。

恵林寺の歴史は古く、鎌倉時代にまで遡ります。元徳二年(一三三〇)、二階堂貞藤(道蘊、一二六七～一三三五)が夢窓疎石(一二七五～一三五一)を招請して開創しました。以来、日本禅宗史にその名を連ねる数多くの禅僧によって恵林寺の法灯が嗣がれ、同時に、恵林寺はその宗風を慕う外護者を迎えることによってさらなる発展をみます。ことに、戦国期には武将・武田信玄(一五二一～七三)、近世に至っては柳沢吉保(一六五八～一七一四)・吉里(一六八七～一七四五)父子の庇護を受け、信玄・吉保の菩提寺として興隆しました。

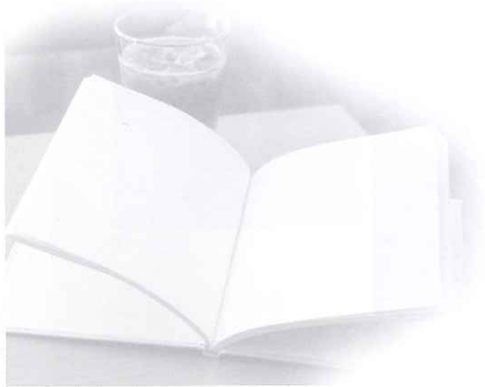
恵林寺は戦国期と明治期に主要伽藍を焼失する災禍に遭いますが、十四世紀に遡る開創期からの歴史を今日に伝える寺宝が守り伝えられています。さらに、信玄を顕彰する人々や柳沢家から、信玄・吉保らゆかりの品々が奉納されてきました。

この度、公益財団法人禅文化研究所と共同で、恵林寺に蔵される絵画・書跡資料の悉皆調査を行い、これまでに紹介されていない中世絵画資料等を見いだすことができました。本展覧会は、恵林寺の文化財がまとまって寺外にて公開される初めての展観となりました。六五〇年を越える恵林寺の歴史を振り返るとともに、その長い歴史のなかで蓄積された多彩な文化財を新発見資料とともにご紹介しました。

学生食堂利用者への支援

同窓会の「学生生活支援事業」の一環として、昨年七月中、学生食堂「ふる―る」の利用者への支援を実施しました。内容は、定価百円の「かけうどん・そば」の内五十円を同窓会が補助。一か月の実績は、総数二、一六九食で、好評でした。

この事業は、昨年六月の同窓会理事会で提案、試みに実施したもので、今後実績をふまえ、メニューや支援額、期間等の検討を重ね、より良い支援方法を実施したいと思います。



禅仏教教育センター行事

「花まつり（降誕会）」

五月三十日昼休み、無聖館前に学生、教職員、近隣の方々等併せて約二五〇名が参加。献灯献花、心経読誦に続いて、細川学長は、「天上天下唯我独尊、即ち、私という存在は、この世界に唯一である、ということを肝に銘じ、日々を大切に生きて欲しい」と述べられ、参加者は、誕生仏に甘茶をかけ誕生を祝いました。中庭では、邦楽部の演奏、茶道部の野点も行われました。

「地蔵盆」

七月十八日昼休み、中庭「花地蔵堂」前に学生、教職員など約二〇〇名が参加。細川学長は、「地蔵盆とは、子供を加護される地蔵菩薩に、幼気な命を守らんと祈る行事であります。皆様も、どうか日本中の、世界中の子供の命、そしてすべての命の安からんことをお祈りください」と述べられ、参加者一同、心経を読誦、地蔵菩薩に焼香しました。

「大学攝心」

九月十二日午前は、禅堂で坐禅の後、花園学園理事長・妙心寺派宗務総長栗原正雄師より、「今ここで咲きなさい」と題して法話を頂きました。栗原師は、「よく心をととのえれば、どのような境遇にあっても、正しい生き方ができる」ということを、エピソードを織り交ぜ説かれました。斎座（昼食）は、「カフェテリア・ふる～る」で、恒例の釜揚げうどんの供応。午後は、再び坐禅。十三日は、妙心寺に移って大方丈で坐禅、細川学長法話。学長は、先師方が命がけの修行で到達された、天地自然と一体の「無」の境地を熱く述べられました。続いて、重要文化財の法堂の雲龍図（狩野探幽作）、塔頭龍泉庵の庭園・襖絵を拝観の後、再び大方丈で坐禅。微妙殿で精進料理の斎座を味わって、全日程を終えました。

「心地良き坐禅」

仏教学科一回生　吉田容卓

在家出身の私が、寺院の学徒として花園大学へ入学して初めての夏、大学主催の攝心に花園禅塾生として参加させていただきました。初めて足を踏み入れた大方丈での坐禅はとても緊張し、普段禅塾で行っている坐禅よりもずっと足が痺れて動けなくなったことをよく覚えています。自分の想定よりも多い参加人数で、禅というものに興味を持っている人が年を追うごとに増えてきていることを実感でき、同じ場に居られる不思議な連帯感のような感情も湧き上がりました。その様な想いを、自坊の義父のような花園大学を卒業した先達の方々もきっと経験したのだと、音の無い空間で静かに教えてくれた大学攝心に感謝致します。

「成人の集い」

一月二十日（火）昼休み、教堂ホールで開催。混声合唱団の「わが法師さま」の流れる中、導師細川学長、献灯献花の学生入堂、焼香、心経読誦、本尊回向に続き、全員で「教堂の祈り」を唱和。成人代表が、誓いの言葉を述べると、学長は、「自らの成人の日を振り返る時、その後の歳月の速さに驚くばかり。どうか掛け替えのない今という若い時を無為に過ごさず、己を磨き、精進努力してください」と励まされました。

第二十八回 花園大学人権週間報告

昨年十二月八日から十一日にかけて第二十八回花園大学人権週間を開催しました。

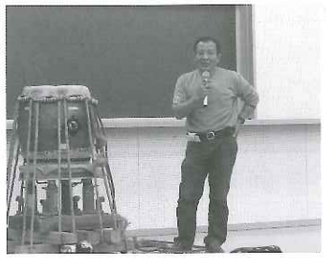
八日は前夜祭「ある精肉店のはなし」を上映しました。今回はプレイベントとして映画に出演されている北出昭さんによる「太鼓張り」の実演も行いました。参加者も体験させてもらいました。

九日からは講演会です。九日、中北龍太郎さん(狭山事件弁護団事務局長・弁護士)「冤罪と差別・人権―狭山事件から考える」。十日、後藤貞人さん(弁護士)「裁判員裁判と死刑」。十一日、後藤至功さん(佛教大学福祉教育開発センター講師)「災害時、いのちと暮らしを守る」の三講演です。

冤罪、裁判員裁判、災害…「自分には関係ない」「自分だけは大丈夫」と思いがちですが、いつ自分の身におきてもおかしくないことばかりです。まずは自分のこととして考えてもらいたいと企画をしました。三名の講師の方ともに、非常にわかりやすく、しかし信念をもったお話で、大変興味深く、あっという間の九十分でした。

今回は、特に統一テーマを設けませんでしたが、期せずして、人権週間全日程を通して「いのち」をテーマとする内容になりました。自分のいのちがいかにして生かされているのか、自分のいのちをどのように守るのか、そのことを考えること、それはひいては他人(他の生命)のいのちを大切にすることにもつながると思います。今回の人権週間が、そのようなことを考えるきっかけになったのであればうれしく思います。

(すとう・あきこ=人権教育研究センター特任事務職員)


北出 昭さん

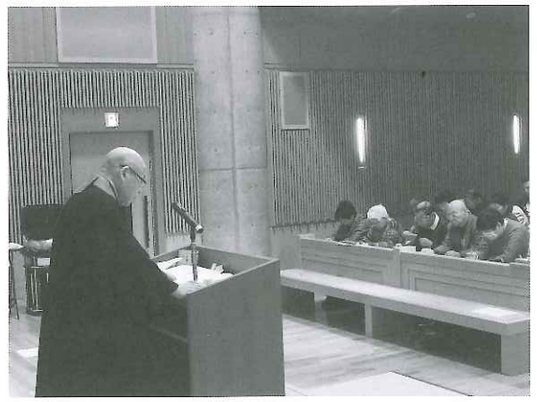
中北 龍太郎さん

後藤 貞人さん

後藤 至功さん

花園大学学長講座 ―禅とこころ― 最終講座

一月二十六日教堂で、「禅の世界―禅語に学ぶ」と題して、細川学長の今年度最終講座が開かれました。いす坐禅、心経読誦に続いて、細川学長は、「趙州録」や「無門関」をもとに講義をされ、先師の言葉に真摯に向き合う時、我々を叱咤激励する声が聞こえるはず。逆境に挫けず、小成に甘んじることなく、日々新たに、日に新たに、精進努力してまいりましょう、と結ばれました。



CLUB クラブ紹介

充実した活動が、自分を磨き、絆を強く結びます。

書道部

書道人口が減る中で、上達したいという志を持った仲間が集まり、現在十七人で活躍しています。少し前までは他学科からの入部者もいましたが、現在は書道コース生のみなので、工夫を凝らし幅広い人が書道に興味を持ってもらえる環境を作らなければと考える日々です。

展覧会は夏の学外展と秋の学内展の年二回行い、公募展は高大展や学書展などに出品しています。これらの前には、錬成会や批評会を行い、技術の向上に努めています。先生に見て頂く批評会の他に、錬成会後に学生同士の批評も行います。ここでは、作品を見て感じたことを言葉で表現し、相手に伝えることで様々な作品の見方を学び合っています。

先日、新体制になり五十六代目を迎えました。個人の目標は様々ですが、部としては技術や知識の向上だけでなく、高大展で上位を目指し、展覧会では学生でしか出来ない作品作りにも力を入れて、努力を重ねていきたいと思っています。

吹奏楽部

花園大学吹奏楽部は、二回生四人、一回生三人で活動しています。主な活動は、入学式、卒業式での演奏や、地域の方々から依頼を受けての演奏です。部員は少ないですが、他大学との交流が盛んで、毎年、京都府内の十五大学の吹奏楽部員が集まっての演奏会にも参加しています。

普段の大学生活では出会わなかった他大学の学生と一緒に練習をし、演奏会を作り上げていくという、貴重な体験が、私達の大学生活をより一層充実させていると思います。

部内では、一回生も二回生も交じって相談をして、練習や演奏会のことを決めています。中学や高校から吹奏楽を始めた部員が多いのですが、大学から始めた部員もいます。先輩や後輩という垣根を超えて、これからもお互い切磋琢磨し、活動の場を広げていきたいと思っています。

花園大学 師弟座談会

桐田清秀先生を囲んで

桐田　清秀
文学部　名誉教授

船越　義正
京都市身体障害者リハビリテーションセンター

鍋島　康秀
社会福祉法人　和

井上　圭伍
大阪府立松原高等学校

山田無文先生の卒業式での挨拶

桐田▼まずは自己紹介を兼ねて近況を報告しましょう。私は一九七〇年に花園大学に来まして、五年ほど前に退任し、その後は非常勤として勤務していましたが、この三月でいよいよ本格的にリタイアします。

船越▼一九八〇年卒業の船越です。京都市の身体障害者リハビリテーションセンターで生活支援の仕事をしています。四月から組織が改変され、高次脳機能障害の方の生活面での支援に取り組みます。

鍋島▼一九八三年卒業の鍋島といいます。大阪府豊中市にあります社会福祉法人和の理事長兼管理者を務めています。地域生活支援ということで知的障害、特に自閉症の方々と共に活動しています。

井上▼二〇〇七年卒業の井上です。大阪府立松原高等学校で日本史の教諭を務めています。今日は授業が終わってすぐに来ました。桐田先生の前なので緊張しています。

船越▼私の入学した一九七七年は、現在のキャンパスへの移転時で、入学式は旧花大で行われました。キャンパス移転反対闘争が盛んな頃でしたから、反対派が檀上に乱入するという騒ぎもありました。私たちの時代は年間授業料が確か二十万円ちょっとでした。

桐田▼その当時は、立命館と花大は学費が安いと言われ、立命館よりも安いのが花園大学でした。その分、教員の給料も安かった。

船越▼卒業式も思い出があります。山田無文先生がお祝いの言葉を述べられまして。

桐田▼お話がぐるぐる回ったときだね。

船越▼無文先生は、「般若のような、赤子のような心を持たねばならぬと思うのであります」と何回か繰り返されて、このままどこまで行くのかなあと思っていましたら、ふっと我にかえって、「今日は何の日でしたか」と言われ、事務局長の佐野大義先生が、間髪入れず「卒業式でございます」と言って、無文先生はそれにも動じず、「おめでとうございます」と言われました。今でも語り草です。今、考えてみたら、当時の学生は、社会の問題に向き合うなかで、やり方や表現の仕方はいろいろあったと思いますが、一生懸命やっていたのだなと思いますね。

花大の自由闊達な学風について

鍋島▼私は、将来、マスプロ大学に進学して普通に就職するのは嫌だと思っていた中学生の頃に、読んだ花大のパンフレットの文面が魅力的で心に響きました。花園一本で、推薦で社会福祉学科に入学しました。一回生の「哲学」の講義が思い出深いです。

桐田▼「福祉の哲学」と言ってやっていた授業だね。

鍋島▼その授業で、今までの自分の価値観を崩されました。オムニバス形式の授業で、岡田先生は石牟礼道子さんの「苦界浄土」を取り上げておられましたね。桐田先生の「個人と国家は二律背反だ」というお話だとか、心理学のメサイア・コンプレックスの話などは印象に残っていますね。大学というのは、こういうことを学べるのだと実感しました。

井上▼私は日本史が好きで、平安京のうえに立っている唯一の大学というキャッチコピーに惹かれ、教員免許も取得できることから花園大学を選びました。家から一時間半ぐらいかけて通っていました。これぞ大学の先生といえる先生がおられ、たとえば、芳井敬郎先生。私は今でも芳井敬郎先生の影響を受けて授業もやっています。もうお一人が桐田先生。私は、桐田先生の授業が好きで、今日は「教育原論」と「道徳教育の研究」のノートを持参しました。

桐田▼私の授業はノート取りにくかっただろう。

井上▼いや、先生の言われたことはほとんど書き留めています。最初は硬い方かなと思っていたのですが、だんだん話が面白くなってきて、先生のおかげで、大学に入って、学ぶことの楽しさを初めて知りました。二〇年前に研究室で十一万円盗まれた話などを、授業のなかで、思いたったように語りだすスタイルです。話に引き込まれました。

桐田▼昔は授業で勝手なことを語れました。今は大学教員も教育者で、学生に勝手に勉強しろと言っていたのでは通用しない。日本の高度成長期から少しずれた形で、大学の高度成長期があって、大学への進学率が六〇％を超えるようになって、大学の質も段々変わってきましたね。八〇年代までの学生と、九〇年代以降の学生は、はっきり違うね。私が花大に来た頃は、一五〇日ものストライキをやっておった時代で、学生も非常に元気だった。教員も学生を完全に大人扱いしていました。私もほかの先生の授業に二つほど出ておったし、それぞれの先生が研究会を立ち上げて、非常に自由な雰囲気でした。よく研究室で酒を呑みました。

船越▼昼間からね。研究室の専門書の並ぶ本

棚に酒ビンも置かれていました。やかんに日本酒が入っていて、湯呑み茶碗で呑む感じですね。喫煙もうるさくなったので、研究室の灰皿は吸い殻がてんこもりでした。

鍋島▼研究室に冷蔵庫もありましたね。先生に「王将で餃子買って来い」と言われて、ゼミの開始がお酒でしたからね。

井上▼花大は学生と教員の距離が密接ですよね。私の頃も、研究室に豆撒きに行って桐田先生に鬼をやっていただいた思い出があります。食堂に行くと、桐田先生が食事をとっておられて、僕が目の前に座ったら、先生は急いでおられたのか、無言でちくわの磯辺焼きをぽんと僕の皿において、そのまま去っていかれたんですよ。かっこいいなと思いました。

桐田▼そうか。

社会の第一線で活躍するために大切なこと

船越▼私は被災地にボランティアに行くことが多くて、広島の土砂災害と同時期に、京都の丹波市でも死者こそ少なかったけれど被災し、農地に土砂が入ってそれを撤去するボランティアをしています。Facebookでそうした話をすると、花大の先輩が理解してくれたりするのでうれしいですね。二〇一一年十一月、東日本災害復興ボランティアとして、宮城県七ヶ浜町ボランティアセンターで活動中に、偶然母校の名前のジャンパーを着た学生に出会ったのは驚きました。ボランティア隊※を引率していたのが同級生だった事、狭い京都で逢わないのに、こんな離れたところで～と、二度驚きました。その後、この再会がきっかけになり、特に京都府下での災害ボランティア活動について情報交換をしたりしています。

※二〇一一年十一月十九日～二十三日　花園大学東日本震災復興ボランティア　十八名参加

桐田▼阪神淡路大震災のときも花大生がよくボランティアで行った。あれは岡田先生が組織したんです。

船越▼災害現場でも福祉の現場でも、現場こそが最前線で、最前線にいながら、今為していることを客観視できることが重要ですね。岡田先生がよく言われていたことなのですが、絶対化せず、相対化することが大切だが、さらに相対化とは何なのか、それ自身を問うことが必要です。現場にいるとつい周囲のことが見えなくなるので、二重、三重の問いかけをしていくことが重要だと思います。

鍋島▼社会福祉学科は、国家資格が取得できるのがアピールポイントで、それはそれでいいと思いますが、学生時代の四年間は社会に出るまでの貴重なモラトリアム期間なので、いろいろ経験してほしいと思います。特に資格は手段であって、それを取得して何をするのかをしっかり考えてほしいですね。実際の福祉の現場では、資格がなくても、素晴らしい仕事をしてくれる人もいますし、逆に資格をもっていても、力を発揮できない人もいます。

桐田▼福祉の仕事は資格があるからできるものではないと思いますね。もちろん最低限の知識や技術は必要だけれど、福祉も教育も人とのつきあいの仕事だからね、それだけではない何かが必要なのだろうね。井上君などは先生に向いていると思うんだよね。勉強ができても、教師に向かない人はいるし、技術が優れていても福祉に向かない人もいる。これから専門職化していって、問題がいろいろ出てくるんじゃないか。

鍋島▼社会福祉の制度としての標準性を担保しようとすると、やっぱり資格なんですよね。しかし標準の内実まできちんと考えられているかというと疑問ですね。若い人に言いたいのは、資格をとることは悪いことではないのだけれど、それを内側から破るような感覚で仕事をしてほしいですね。

桐田▼私自身が寄り道ばかりしてきたほうだし、学生時代も勉強しないで他のことばかりやっておったので、資格なんて大嫌いだったし、何ひとつ資格なんてもっていないし、学生時代は、できるだけ遊んだほうがいいと思いますね。最近の学生は、勉強もしないだけではなく、遊びもしないなと思います。もう少し体を動かしなさいと思います。旅行をするなり、いろんな人にぶつかってほしい。

花大を通じた人とのつながり

井上▼私はパソコン機器が嫌いなんですが、機械化されて人間らしさが失われつつあるように思います。学生たちには、人とのつながり、出会いを大切にしてほしいと思いますね。花園大学は、個性を大切にする大学だと思います。自分も変わっていると思いますが、その自分が非常に楽しく大学生活を送ることができました。だから私は、自分に似ている生徒には花大を勧めています。現に井上先生みたいになりたいといって、今、日本史学科の三回生に教え子がいるんです。うれしいですよ。生徒には自分の個性を伸ばしなさいと常日頃から言うようにしています。

船越▼私の息子は、井上さんと同じ年代で、史学科の卒業です。今二十七歳ですが、林業をしています。高校卒業のときに何の勉強するのかと聞いたら、民俗学に興味があると言いまして。元々山が好きで、山に行った際に山岳信仰的なことにふれて興味を持ったそうで、花大にいくことになって驚きました。

鍋島▼花大を通じた人のつながりはいいですね。先生方も著名な方も多くて、八木晃介先生や、特別講義では、井上清先生の講義を、五〇名ぐらいの教室で聴くことができたのは花大ならではのことで、ラッキーでした。

桐田▼私自身、花大では、学長始めとして、非常にいい同僚に恵まれました。山田無文さん、大森曹玄さん、盛永宗興さん、阿部浩三さん、こうした人たちは、やはり凄い人たちだと思います。そういう人たちのそばにいて、一緒に飯を食い、酒を酌み交わした。そういう人たちの影響は大きい。そういう人たちは、自分が何を得るかではなく、自分に何ができるかをいつも一生懸命に考えておられた。無文さんなどは、教授会に出るといつも懐からごそっと最低二十万円入っている封筒をどさっと出して、事務局長に渡すという時代でしたからね。学生にも恵まれて楽しかったです。

井上▼桐田先生、これからの研究のご予定は。

桐田▼鈴木大拙のことを調べ出して、年譜だけで、今のところ一〇〇〇枚ぐらいになっています。まだ増える予定です。それが終わったら、伝記を書きたいと思っています。調べれば調べるほどいろんなことが出てきます。今日は、久しぶりに皆さんの顔をみることができてうれしかったです。お忙しいなかお集まりいただき、本当にありがとうございました。

お元気ですか

豊かな時間をともに過ごした同窓生からお手紙が届いています。

昭和五十二年仏教卒　棚橋 正道

気が付けば昭和五十二年に花園大学を卒業して三十八年も過ぎてしまい、昨年にはめでたく還暦を迎えてしまいました。

近況を報告させて頂きます。私には三人の子供がいますが、昭和六十年生まれの長男も花大、花園禅塾を卒業して建仁僧堂に掛搭、今は暫暇して副住和尚として法務を手伝ってもらっています。父が花大在学中に遷化してしまいましたので、長い間法務を一人でやってきたので、二人で出来る有り難さを味わっています。次男も建長僧堂で修行中、膝を痛めてしまい早めに暫暇しましたがたまに、三人で法務も行っています。在学中は邦楽部に席を置いていましたので、今もたまに尺八をプカプカ吹いています。全く上達しないのですが、近在の師匠の門下に入り年に二回ほど寺で門下生で学習会と飲み会をやっていますが、まあ当然、主は飲み会です。

寺では不定期ですがジャズや落語などの催し物をやっています。坐禅会や写経会などの宗教的行事以外でも少しは一般の方々が気安い寺にと思ってのことですが、本人が一番楽しんでいるのかもしれません。

邦楽部の同窓会がたまに有りますが、久しぶりに皆さんに会えるのがとっても楽しい歳になってきました。

これからも、地域と共にゆるゆる暮らして生きたいと思っています。

写真は本堂でやったジャズの方とのショットです。ジャズメンは山口　武、ルイス・ナッシュ、ロン・カーターの三人です。

平成元年国文卒　市川 まゆ美

花大入学のあの日から三十年が経ちました。こんにちは。お元気ですか。大学の四年間を共に学んだ友人、ミハルちゃんこと、旧姓谷口美晴さんが、九月に病気のため亡くなりました。皆様にご報告を致します。最期のお別れに集まった同級生との再会や、懐かしく学生時代をふり返り、ペンを執りました。「縁は、あっても無くてもそれがご縁よ」彼女の言葉を思い出し、ご冥福をお祈りします。

平成八年史学科卒　山下（旧姓古長）寿江

こんにちは。

皆さんお元気ですか？すっかり御無沙汰してすみません。

九州大分から出てきて、在京期間は、大学の四年間だけのつもりで、友人達と博物館、神社仏閣、京都三大祭りと、毎週のように出掛けていたのがとても懐かしいです。

しかしながら四年のつもりが私は今でも京都にいて、サッカー少年の母親です。お寺巡りは京都サンガの試合観戦に変わり、京都らしい生活はできていませんが何とか元気に楽しく？生活しています。

また、この場で皆さんの近況を聞けたら嬉しいです！

平成十年仏教卒　池田 丈明

私が学部で中世禅宗史研究を始めたのは、もう二十年も前のことです。中尾良信先生の「日本仏教思想史」の講義で、新仏教中心史観をこえた、禅宗の諸宗兼学の姿に触れ、大変に魅力を感じたことを今でも鮮明に覚えています。卒業後も、自分勝手な時に先生を訪ねてご迷惑をおかけし続けている。ここにきてようやく、先生の講義にもとづくことで、はじめてまとめることができた五山の施餓鬼に関する論文を世に問うことができそうです。

教員寄稿

―お久しぶりです―

名誉教授
常盤 義伸

回　想

一九六九（昭和四十四）年春私が初めてお会いした荻須純道先生は、それまで二十年近く新制大学誕生期の学監として大学運営の責任者であられた後の、高揚感を抑えた穏やかさを全身に表しておられたように記憶する。ご論文の抜刷りを幾つもいただいたほかに、愛弟子の竹貫元勝先生を通じて頂戴した編共著、寺社シリーズ（2）『妙心寺』一九七七年は、よく参考にさせていただいた。荻須先生は、禅思想に私を導入して下さった大先輩のお一人であられた。

私は出身大学で仏教学を専攻したが、大学では教養課程英語を担当し、別に柳田聖山、入矢義高の両先生主宰の禅語録研究会に参加し、傍ら『楞伽経』梵本の研究を始めた。研究会で読んでいただいた敦煌本『絶観論』に『楞伽経』の思想が取り入れられていることを知り、これの英訳を作成して、後日柳田先生が日本語訳を作成され合わせて単行本として禅文化研究所から出版していただいた。

一九八二―三年アメリカ合衆国のミシガン大学に仏教学客員教授として招かれたとき、英訳『絶観論』が好評であることを知った。秋冬学期には道元の真字『正法眼蔵』の初め数章を訳出紹介したところ、受講の学生諸君が予想外に喜んでくれた。当時柳田先生は京都大学人文科学研究所教授として禅文献の講読をされ内外の研究者の関心を集めておられた。ミシガン大学で後に仏教学主任教授となられたルイス・ゴメス氏もそのお一人で、柳田先生に渡米して講義をされることを要請しておられたはずである。私の出講は、そういう状況下での柳田先生のご配慮によるものであった。

このような大先輩の方々に見守られる中で私が進めることのできた『楞伽経』の研究は漸く結実の時期を迎えようとしている。グナバトラ訳四巻本の校訂と訓読、それと平行して進めた南条校訂梵本からの梵文四巻本テキストの復元、それの和訳と解説の決定版を何とか完成したいと願っている。

荻須純道先生

仏教学科　教授
中島 志郎

お久しぶりです。仏教学科の中島です。思えば私が花園大学を卒業したのが三十数年前です。それから韓国の大学に行ったり、長い流浪と遍歴の後に花大に迎えてもらってから、早や二十年余り、私も齢を重ねて還暦を過ぎてしまいました。多くの学生諸君と親しく接するような教員ではなかったと思いますが、それでも学生諸君との交流で懐かしく思い出すのは、非常勤講師の頃から、研修旅行と銘打って、彼らを引きつれて、毎年のように隣国韓国を訪れたことです。田舎の安宿に飛び込んだり、半ば道に迷いながら山奥の古刹を訪ねたり、思い出すと冷や汗もののの貧乏旅行をしていましたが、私も若かったし、今となっては特別の思い出です。韓国の僧侶や研究者との交流は今も続いていて、近頃は韓国から留学生もやって来てくれたりで、韓国とも息の長いつきあいが続いています。

あのころの学生諸君がときおり訪ねて来てくれたりもしますが、卒業生も四十の声を聞こうかというものもいて、研究室の風景は、ほとんど変わらない（本だけはますます増えて、相変わらず散らかっています）のに、確かに短くない時が流れたのだと気づかせてくれます。

実はこの間、私は何度か病気をしたりで、そんなこともきっかけになって、この十年ばかり死生観の講座を開いたり、死をめぐる議論を取り上げたりしています。社会人の皆さんが多数参加して下さいますので、こちらが教わることの方が多いような講座ですが、私自身のこしかたを振り返ると共に、新らためて深めてゆきたい問題だと思っています。

花園大学には学生の頃から数えれば、本当に長いあいだお世話になって来ました。職を退くまで私に残された時間もほんの数年、ささやかなりとも何か恩返しができるよう、最後まで学問に成実に取り組むことを心がけたいと思っています。仏教の勉強は際限もありません、そんなわけで私の勉強は今も未完です。報告にもならない近況です。またいつかどこかで。合掌。

各種案内

公開講演会

大分市公開講演会を左記の如く開催いたします。今回は合気道家（八段）の菅沼守人氏を講師にお招きします。氏は五十年以上にわたり合気道を研鑽され、また禅にも造詣が深く三十年以上坐禅にも取り組んでおられます。多くの方のご来場をお待ち申し上げております。

大分県支部事務局　高田祥道　生善寺〇九七―五九七―〇八八九

日　時／二〇一五（平成二十七）年 十月八日（木）
午後六時開場予定

会　場／「グランシアタ 音の泉ホール」 大分県大分市高砂町

花園大学歴史博物館「春季企画展」

「吉良氏ゆかりの寺　花岳寺と良哉元明」

日　時／二〇一五（平成二十七）年
五月十八日（月）～七月十一日（土）
※会期中、作品の展示替を行います。
〈前期〉五月十八日（月）～六月十三日（土）
〈後期〉六月十五日（月）～七月十一日（土）

休館日／日曜 ※但し、大学行事により臨時休館する場合があります。
開館時間／午前十時～午後四時（土曜日は午後二時まで）
入館料／無料

支部長ご交替お知らせ

今年度、三重、山口、長崎の三県の支部長が交替されました。三重支部では、中山義彦師（昭和四十三年仏卒）がご退任され、河相健成師（昭和四十九年社福卒）がご就任。山口支部では、日下元精師（昭和五十五年仏卒）がご退任、桝野象堂師（昭和四十五年仏卒）がご就任。長崎支部では、微笑義教師（昭和四十年仏卒）がご退任、岩村雲外師（昭和三十一年仏卒）がご就任されました。ご退任の支部長様には、永年のご功労に厚く御礼申し上げます。また、新たにご就任の三師には、公私ご多用の最中のご就任に、心より御礼申し上げますと共に、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

三重県支部長
河相健成師

山口県支部長
桝野象堂師

長崎県支部長
岩村雲外師

※微笑義教師は、二〇一五（平成二十七）年二月にご逝去されました。永年のご功績に謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。

新刊案内

幼児教育の夢
『童画から物語る光の世界』

児童福祉学科専任講師　保田 恵莉

わたしと一緒に絵を描き、歩む幼子がいます。時に「園長先生は絵が大好きなのでしょう？」と尋ねたり、「私も絵を描くことが大好き！」と言ったり、「僕はお話が描けるよ」と、得意げに話す子ども達です。その瞳に「光」が輝いて見えます。幼児教育の夢は、子どもからのメッセージでもあります。著書には「招待作品」と「POEM」を掲載しました。

さざ波のような画風の流行に流されないで何年も見つめられる「絵」をせつに描きたいと思います。創造の世界にも「真実である」という視点でわたしは、わたしにしか描けない作品を創りたいと願うのです。幼児教育・美術教育の研究者として光を追い続けていきます。

卍山道白禅師
東林語録　訳注

仏教学科教授　野口 善敬

卍山道白禅師は、日本江戸期の曹洞宗の僧侶で、臨済宗の無著道忠禅師より少し早い時期に活躍した。洞門における宗統復古を果たした中興の祖として知られ、黄檗宗が伝わって以後の、日本禅宗の変化を知る上で重要な人物。この書は、卍山禅師が博多の東林寺にいた頃の詩文集の訳注であり、当時の北部九州の禅宗の状況を如実に示している。当時の禅門のあり方を俯瞰するために済洞の壁を越えて読んでみたい好著。

京の散歩道

下鴨神社と糺の森

正式名を賀茂御祖神社（かもみおやじんじゃ）とよび、玉依媛命（たまよりのひめのみこと）・賀茂建角身命（かもたけつぬみのみこと）を祭神とする。種々の記録や歴史書を紐解くと、紀元前にまで遡る古い歴史を窺い知ることができる。参道は「糺（ただす）の森」を貫いており、都市の中にありながら木々の息吹を味わえる貴重な場所となっている。神社の朱と森の緑の美しいコントラストもまた魅力を放つ。糺の森は縄文時代から生き続ける森で、現在まで変わらず京の人々と街を見守っている。下鴨神社といえば毎年五月十五日の賀茂祭（葵祭）が有名で、平安時代そのままの姿で行われる。縄文、平安、そして平成に至るまで、悠久の時の流れを感じさせてくれる風景は京都ならではのものだろう。

編集後記

春は曙。やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

陽春に染まる東山の稜線を眺めますと、枕草子が思い起こされ、古都の春を実感いたします。同窓の皆様におかれましても、全国各地各様、春の気配をお感じになっておられることと存じます。

この度、七年ぶりに、同窓会通信を復刊いたしました。その中で、「子弟座談会」も復活。第一弾に、桐田先生にご登壇いただきました。桐田先生はじめ、ご協力いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

本誌が、大学と同窓、同窓相互の良き交流の場となりますよう、努力してまいりますので、今後とも、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

湖国の春 ～比良の残雪～

花園大学 同窓会通信90号 2015.3発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1
同窓会本部
電　話 (075) 811-5181 (代)
電　話 (075) 283-1125 (直)
ＦＡＸ (075) 823-0600
URL http://www.hanazono.ac.jp
E-mail kouryu@hanazono.ac.jp